

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年 3月26日  
学校法人 田中学園  
ちよの幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ① げんきな子 健康で明るく、自立できる個性のある子どもを育てる
- ② 思いやりのある子 集団の中でも日常のきまりを重んじ誰とでもよく遊べる子どもを育てる
- ③ どんなことにもがんばる子 すなおで感受性、創造性に富む子どもを育てる。

## 2. 重点項目

### ・ちよの幼稚園について

当園は、開園44年を迎え、2463名の子ども達が卒園し、様々な所で活躍をしている。子どもたちの教育・保育の環境は現在の社会情勢から認定こども園等さまざまな形がある。当園は幼児教育として大切な家庭との連携や、子ども達が安定して幼児期を過ごせるよう私学助成型の幼稚園として運営を行っている。ただ、社会情勢の変化で子育て世代の就労や低年齢児の保育のニーズも強まっており、今年度より幼稚園型認定こども園に移行した。子育て支援として0歳から園にかかわり、教育の基盤である家庭教育をしっかりサポートしていき幼稚園教育につなげていく。生涯続く学びの基礎を培っていく環境づくりを今年度も進めてきた。今年度から1歳児の子ども達を受け入れがスタートし、新たな学級ふたばぐみが新設された。

### ・自己肯定感を持ち主体的に取り組む学びを支える環境づくり

幼い子ども達には、大人の温かな見守り・関わりの中で安心して健康に生活する事が何より大切である。また、日々の暮らしの中で身につける生活習慣が心と体の土台を作り、将来の人間形成の基礎になる。「自分は愛されている」という感覚(自己肯定感)を育て、子ども達の中に備わっている「自分で伸びようとする力」を引き出している。体の育ちと併せて、子ども達の自我の芽生え・興味関心の広がり・社会性の育ちといった様々な発達を踏まえ、集団を通した教育を大切にしている。

幼稚園は、学校教育法第一条に定められた、子ども達が初めて出会う「学校」である。また、家庭から地域社会への、初めの第一歩でもある。自己肯定感を持って様々な事に積極的にかかわろうとする子ども達を育てていきたい。家庭との連携をより大切に子ども達の成長を喜びあっていく。その為にすべてにつながる最も大切な存在、教師。研修等で研鑽し、本園の教育活動にふさわしい人員配置をしてより質の高い教育を取り組みたい。認定こども園への移行準備をしながら下記の点を本年の重点項目として取り組んできた。

### ・本年度重点に取り組む目標・計画

#### ・教員の質の向上

園内研修及び県外研修等の充実を図り、教師の言葉がけや保育の質を高める

毎月の振り返り(KPT研修)を活かし、個々が日々の仕事を振り返り、計画し、実践を行うというPDCAサイクルを回すことにより、教育の質の向上を図った。

#### ・職員との連携の強化

毎月必ず1回は学年主任会を行い、縦の繋がりの機会を設け、他学年との連携を図れるような仕組みづくりを行った。また管理職間でも定例会を毎月最低1回は行き、連携を強化してきた。

#### ・より良い質の高い教育を推進するための人事改善

職員の処遇改善及び保育環境の充実

- ・未就園児の保護者及び子ども達へのサークルの充実
- ・ICT の充実により業務改善及び、働き方改革を行った。  
全クラスに iphone を支給し、写真の撮影およびデータ管理、ドキュメンテーション作成等を行える体制を整えた。  
Google ドライブを導入したことでセキュリティを強化した上でデータの共有がスムーズとなった。

## 2. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	自己評価結果	評価
I 教育環境			
1	保育の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標を基に作成した教育課程、年間指導計画に沿って、様々な行事に取り組んできた。今年度より新型コロナウイルスの取り扱いが5類に移行したことにより、人数制限の解除、食への取り組み等をコロナ禍前の形へと戻すことが出来た。また毎月の振り返りから、その時の子どもの姿に合わせた月間計画、週の計画も変更するなど目の前の子どもの育ちに準じた柔軟な計画も立てている。普段の子ども達の様子はドキュメンテーションとして配信(おうちえん)を行い、保護者に共有を行ってきた。</li> <li>・1歳児クラスは日々のアタッチメントを大切にしながらも生活習慣の形成を図り、2歳児は安定した環境の中でコーナー遊びを中心とした自由保育を行ってきた。3歳児からは集団での活動を意識させていく。4歳児ではクラスで話し合いを重ね、心の育ちに目を向け道徳教育を行った。5歳児では学年単位で考えを出し合い、心の共有化を持ち個での実践。絵画、英語、体育、音楽活動等日々取り組む事で様々な表現のベースを作ってきた。</li> </ul>	A
2	教員体制の充実 教育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4700冊ある絵本を全て分類して子どもたち、職員が読みたい絵本をすぐ手に取れるように環境構成を行った。</li> <li>・図書館司書経験のある事務員を採用し、季節の絵本の紹介文を季節ごとに作成し、紹介し絵本を通して季節に触れ合うことのできるようにした。</li> <li>・各学年に支援が必要な子等への支援、主担任の負担軽減のため補助教員を配置した。</li> <li>・未満児クラスにおもちゃインストラクターの指導のもと、コーナー遊びが広がるように環境の再構築を行った。</li> <li>・障害児等支援が必要な子どものスポット記録等子ども理解と園としてのかかわり方を共有化した。</li> <li>・全クラスホワイトボードを設置し、子どもの声、思いを見える化できるように板書できる体制を整えた。</li> <li>・白山市の 4:1 加算補助金を活用し、1歳児クラスに手厚い職員配置を行っている。</li> </ul>	A
3	研修や研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修委員会を構成して年間計画を立て、実践した。</li> <li>・園内研修を適宜行い、KPT 方を使い毎月テーマを設けて話し合いを行う。正規職員全員で話し合いがしやすい風通しの良い環境をとりながら研修を行っている。</li> </ul>	A

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修ハンドブックや研修命令書で履歴の確認、学びの報告をする機会を作った。</li> <li>・全職員が石川県私立幼稚園協会主催の1回5時間のキャリアアップ研修を受講。</li> <li>・東海北陸地区教育研究愛知大会で研究発表を行う。</li> <li>・園長がECEQ(公開保育)コーディネーター養成に推薦を受け、ECEQコーディネーター資格取得中、R6年度はちよの幼稚園にてECEQ(公開保育)を行う予定。</li> <li>・おもちゃインストラクターを招き、未満児クラス向けの環境構成研修を行う。</li> <li>・学期末反省会をより職員一人一人の話し合いが生まれるような形へと変更した。</li> </ul>	
II 地域の幼児教育センターとしての役割			
1	未就園児に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にこにこサークル、園開放を実施、サークルではわらべうたや製作活動、園長による教育講話を行い、未就園児保護者に向け幼児教育を広く伝えている。</li> <li>・園見学を個別に対応をして家庭での困りごとを聞いたり、園の子ども達の育ちを話し幼児教育について理解を深めてもらった。</li> <li>・各サークルで園の教育方針の情報発信を行った。HPの充実。Instagramによる告知も今年度より行っている。</li> </ul>	A
2	教育相談機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達が遅れている子に対して保護者からの相談ができる環境を整えた。</li> <li>・発達相談センター・子ども相談室との定期的な情報交換と各施設と園側の窓口を決め連携を密にした。</li> </ul>	A
3	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園に移行により、預かり保育利用者が増え職員数も拡充している。</li> <li>・支援システムを全職員が基本部分を使えるようになり、より子ども達の管理がやすくなった。</li> <li>・常時の預かり担当が週2回程度の出勤。パート職員や臨時職員も加わり5名体制で行う。一部正規職員がフォローしている面もあり、保育後の準備・打ち合わせができない時がある。預かり保育は異年齢児が集まり行っている為、預かり保育専用の保育計画の必要性も感じている。</li> </ul>	B
安全管理			
1	外部侵入者・来訪者に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯に対するマニュアルを作成し全職員で動線を確認し不審者等の緊急時に対する心構えを確認。さすまたの利用等実践とイメージトレーニングの実践を行った。新しいシステムのさすまたを導入している。</li> <li>・常時職員が1名職員室に常駐し来訪者のチェック。施錠を実施し不審者が侵入しにくい状況を保った。</li> </ul>	A
2	施設・設備・園児に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間安全計画を確認し園、学年、クラスで安全に対する意識を高めた。</li> <li>・バスの置き去り事故を機に再度出席やバスの乗降、降車時のチェック体制の確認、マニュアル改定。バスの置き去り防止の安全防止の機械の設置(次年度までに義務化となるが先行して取り付け)職員研修。</li> <li>・年間を通して、火災、津波、地震に対する避難訓練を実施した。 ※津波に関する避難訓練は小学校を使うので感染対策の未実施</li> </ul>	A

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震以後、地震の避難経路の再確認、マニュアルの見直しを行い、より実践的な避難訓練を行えるよう強化を行った。</li> </ul>	
3	衛生に対する安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末の除菌やバスの除菌。感染症発生時は換気、毎日の消毒を実施。冬期間は加湿器や窓を開ける等感染対策を実施。</li> <li>・CO2 測定器を各部屋に導入。CO2 の数値が高くなると換気を行うようにしている。</li> <li>・給食衛生マニュアル・嘔吐物処理マニュアル等、衛生に関するマニュアルを作成し、給食室においては石川県保健所、白山市子ども子育て課の監査において衛生面の説明を行っている。</li> <li>・配膳はマスク、帽子、ポリ手袋を着用し、衛生面に配慮を行った配膳を心掛けている。</li> </ul>	A
人事管理			
1	教育目標達成のための人事 教職員の募集採用試験 教職員の雇用条件・労務管理 園長・管理職と教職員とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用試験は試験前に対象者の方に通知を出し、求人票も学校を通して明示した。・職員と労使協定を結んで書面化した。</li> <li>・福利・厚生の部分で職員の慰労会を行っている。管理職は職員と同じ場所で職員一人一人に声をかけてきた。職員会議や学期ごとの振り返りの会等で正規職員が顔を合わす機会を作る。</li> <li>・月に1度学年主任会を行い、園長、主任と学年主任の職員が月間の取り組みについて話し合うことのできる場を設けている。</li> <li>・月に最低1回、園長、副園長、主任の3人で定例会を行い、管理職同士の連携を深めている。</li> <li>・罹患者や体調不良者、家族の発熱等で調整しながら乗り切ってきたが疲れている職員もでていた。心の面で疲れた職員には早めに帰す等管理職が連携して職員の様子を見てサポートしてきた。</li> <li>・良い面をほめるように配慮したり「ありがとう」という感謝の声を管理職から職員に声をかけ温かい職場になるよう配慮する。</li> <li>・事務のICT化の推進等を進め、セキュリティを考慮したデータの共有のシステム Google ドライブを導入した。</li> <li>・職員のシフトが複雑化しているのでシフトメーションを導入。作成の負担軽減とバスや早番遅番等の負担平等化を行う。</li> </ul>	A
財務管理			
1	予算決算・財務情報の公開 納付金算定 物品購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認会計士の監査をきちんと受けており、証明を受けている。</li> <li>・保育料の及び教育充実費の徴収については保護者に手紙を出して理解をしてもう。重要事項説明書を作成し保護者に同意を得て次年度への準備に入る。</li> <li>・物品購入に関しては1つの業者だけでなく比較検討して様々な業者からより質、価格の良いものを入れている。</li> </ul>	A

評価(A:十分に達成できている B:達成できている C:努力を要する)

### 3. 来年度への課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の様子をクラスだより・おうちえん(携帯配信サービス)にて情報を発信してきた。情報の発信だけでなく園理解がより深まり幼児教育の理解や家庭と連携して取り組む。</li> <li>幼稚園型認定こども園へ移行した後も教育の質を落とさないように研鑽を重ねてきた。保育計画の見直しも今いる子どもの姿ベースの保育計画が立てられるような仕組みを作っていきたい。</li> </ul>
2	施設・設備・園児に対する安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前に比べると大幅に緩和措置がとられ、5月からはマスク着用も無くなった。ただし、園内の感染状況に応じて柔軟に着用を行っている。今まで取り組んだ感染対策でペーパータオルの使用や液体せっけんの使用等対策をしてきたが、今後も継続していきたい。バスの安全について来年度から装置装着が義務となり、当園ではすでに取り付けたが、降車後のトリプルチェック等ハード面、ソフト面の安全対策をしっかりとし、より安全に子ども達が過ごせるよう努めたい。</li> <li>自園給食の提供が定着化した。より安心、安全でおいしい給食が提供できるよう市の管理栄養士と共に2年目も衛生面に十分気を付けて進めていきたい。</li> </ul>
3	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き園バスでの緊急の対応訓練等いろんな場面を想定した訓練の実施をしたい。</li> <li>車の送迎のマニュアル・注意事項を作成し、保護者に注意喚起していきたい。</li> </ul>
4	保育の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍が収束し、学校との連携が再開された。小学校、保育園と連携を行い、幼保小連携を進めている。</li> <li>今年度は架け橋プログラムを意識したより充実した連携を目指していきたい。</li> </ul>
5	教職員の雇用条件・労務管理 教員体制の充実 教育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員と研修・打ち合わせを通して環境の見直しを進めていきたい。特に砂場研究を行い、子どもの発想、表現が生まれるような環境を構成していきたい。</li> <li>認定こども園になる事で人数が増えた。質、量が安定できるように配慮し、国の基準を遵守した勤務体制づくりをしっかりと行いたい。</li> <li>ITCを利用した事務作業の効率化を図り、研修や教材研究の時間等の時間を作り、より質の高い教育環境を作ってきた。職員の連絡、情報共有のセキュリティを強化するためにも Slack を導入し、連携を高めていきたい。</li> </ul>
6	未就園児に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>1歳児の受け入れを行いながらも、未就園児のサポートは変わらず充実。園開放や未就園児サークルもこの地域に合わせて月3回程度、親子で登園でき楽しめる環境を整え楽しめるように配慮していきたい。子育て相談にも積極的に応じていく。</li> <li>今年度は年3度程度、IBサークル(赤ちゃんサークル)を復活させ、乳児を持つ親のケア、交流の場を設けていきたい。</li> </ul>
7	預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定こども園へ移行し当園では認可定員180名中90名が8時間及び11時間保育を受ける園へ変化した。今後も長時間過ごす子ども達が増えるので教育時間(15:00まで)の教育内容とそれ以降の家庭的なゆったりした保育と子ども達に応じた雰囲気大切にしていきたい。特に1・2歳児は温かい雰囲気を大切にしながら預かり保育を行いたい。</li> </ul>
8	研修や研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度は東海北陸地区研究大会を控え、園長が分科会のディレクターとして研究会を運営するため、東海北陸地区の研究に園全体で貢献していきたい。</li> <li>研修委員会による毎月の研修の安定的運用による継続運営の実施。</li> <li>10月25日(予定)にECEQ(公開保育)を実施予定。ECEQコーディネーターを迎え、自園の教育がさらに深まるよう丁寧な問いづくりを行い、公開保育に向け、チームで取り組んでいきたい。</li> </ul>

- 来年度は認定こども園以降後、2年目として安定した教育を行っていけるように、今年度の反省を活かしながらすすめていきたい。また正規職員だけでなく、パート職員との話し合いの機会を設け、連携も強化していきたい。
- また園の方針が全職員により浸透するために、ちよの幼稚園のフィロソフィーブック(哲学書)を作成に向け計画を立てていきたい。
- 今年度同様、教育の質を維持しながら1歳児等低年齢児が安全な環境で過ごし、安定した運営ができるよう配慮していきたい。厨房ができ、栄養士と保育職員とのコミュニケーション等を進め、より充実した食育活動を行っていきたい。